

おすそわけの心で

南比都佐小学校六年 中西 陽満里

私は、今年もお盆に祖父母の家に行きました。親せきのみんたと集まったりいとこと遊ぶことも楽しみですが、祖父母が畑で育てたスイカを食べることもとても楽しみにしています。今年も大きなスイカを収かくすることができたようです。しかし、今年は祖母が残念そうな顔をして、

「夜中の間にスイカをいくつかぬすまれたみたいでショックやわ」

と言ったので、とてもおどろきました。祖母が大切に育てたスイカをぬすむなんて許せないという気持ちと同時に、家の前までどろぼうが来ていたんだということがこわくなりました。犯罪は都会でよく起きることで、自分の周りではそういうことは起きないと、なぜか思いこんでいました。祖母の話の聞いていると、他の人の畑でも時々野菜がとられてしまうことがあるそうです。

当たり前ですが、人の物やお店の物をぬすむことは犯罪です。例えば、畑の野菜ひとつくらい、友達の持ち物ひとつくらいという軽い気持ちでとったとしても、とられた人にとってはくやしくて悲しいことです。逆に、とった人はどんな気持ちなのだろう。もしかすると何か理由があったのかもしれない。食べ物を買うことができず、生きるために野菜をとって食べたのかもしれないし、お金が必要でとった野菜を売っているのかもしれない。そのような理由があったのなら、その人の周りにはその人の相談に乗ったり支えてくれるような人がいなかったのかもしれないと思うと、とてもさびしい社会だと思いました。

私は、どんな社会になれば犯罪を防ぐことができるのか考えてみました。それは、家族や近所、地域のつながりが必要だと思います。私の住んでいるところは田舎で、近所の人顔は知っているし、出会ったらおたがいにあいさつを交わす関係です。そして、「畑で採れたからどうぞ」と言って、野菜のおすそわけをいただくこともあります。祖母もきっとスイカを誰にもあげたくないという気持ちではなく、おすそわけはするけれど勝手にとらないでほしいという気持ちなのだと思います。しかし都会では一人ぐらしをしている人も多く、となりに済んでいる人も知らないということがあるそうです。それでは声をかける人もいないので、たよれる人がいなかったり相談相手がいないうことによって、一人でなやみをかかえてしまうと思います。誰かとのつながりがあれば、犯罪をするという考えにいたらなかったのではないのでしょうか。

私はまず、家族や友達という身近な人とのつながりを大切にし、思いやりの心を持ちたいです。家族がつかれていそうだなと思ったら家事を手伝ったり、友達が困っていそうだなと思ったら声をかけてあげれば、おたがいが気持ちよく過ごすことができ、小さいいじめから始まり大きな犯罪へとつながらないようにすることができるのではないのでしょうか。野菜のおすそわけと同じように、少しでも相手を思う気持ちがあるだけで、社会は明るくなると思います。